

科学研究費助成事業（科研費） 国際共同研究加速基金（国際先導研究） の創設について

令和3（2021）年12月
独立行政法人日本学術振興会



はじめに

- 今回、科研費では、大規模・長期間の国際共同研究を対象とし、独創的、先駆的な研究の格段の発展を目的とする新種目「国際先導研究」を創設します。本種目では、高い研究実績と国際ネットワークを有する日本側研究者と海外のトップ研究者との国際共同研究を強力に支援すると同時に、多くの若手研究者の参画を要件として将来の国際的な研究コミュニティの中核を担う研究者の養成を目指します。
- 本資料では、公募に先立ち本種目の概要や審査の進め方のイメージ、応募書類の構成イメージ等を掲載します。本種目では、応募書類に海外の共同研究者が作成する様式（Letter of Intent）が含まれることや、研究機関の支援も重要な要素となることから、応募の準備や調整に時間を要することが見込まれます。このため応募を検討される方におかれては、本資料を参考に、応募内容や研究構想の立案、国内外の共同研究者、所属研究機関との調整等を検討してください。
- 今回掲載した内容は公募を開始するまでに変更になる可能性があります。実際の公募内容や研究計画調書様式、評定要素等については、3月に本会ウェブサイト等において公開する予定の公募要領を必ずご確認ください。
- 本説明資料の内容に不明な点等がある場合には、以下の連絡先までお問い合わせください。公募前のため個別の質問にはお答えできませんが、多く寄せられた質問にはFAQを随時更新して本会ウェブサイト公開する形でお答えします。

〔本件問い合わせ先〕

独立行政法人日本学術振興会 研究事業部研究助成第三課
国際科学研究費第二係 ks_enquire@jpsps.go.jp

目 次

- | | |
|-----------------|-----|
| 1. 国際先導研究の概要 | 4 頁 |
| 2. 審査の進め方等のイメージ | 9 頁 |

1. 国際先導研究の概要

趣旨：

優れた国際共同研究に対して柔軟性の高い大規模・長期間の支援を実施することによる、独創的、先駆的な研究の格段の発展を目的とする。我が国の優秀な研究者が率いる研究グループが、国際的なネットワークの中で中核的な役割を担うことにより、国際的に高い評価を得る研究成果の創出のみならず、当該学術分野全体の更なる国際化、研究水準の更なる高度化を目指す。

さらに、ポストドクターや大学院生の参画を要件とすることにより、将来、国際的な研究コミュニティの中核を担う研究者の養成にも資するとともに、国際共同研究の基盤の中長期的な維持・発展につながることを期待する。

国際共同研究の中心的な役割を担うとともに研究者の育成を支援する研究種目であることから、研究構想の学術研究としての意義のみならず、国際共同研究としての先進性・将来性・優位性等を評価し、課題を厳選の上支援を行う。

1. 国際先導研究の概要

対象：以下の①及び②の両方を満たす研究計画

①「高い研究実績と国際ネットワークを有する日本側研究者」が、海外の研究機関に所属する国際的に極めて優れた研究業績を有する研究者（海外の共同研究者）と共同して行う国際共同研究であって、研究費を重点的に交付することにより、格段に優れた研究成果が期待される研究計画

※ 研究代表者は、責任著者となっている国際共著論文（2016年以降に発表したものに限り）が、被引用数Top10%国際共著論文に該当すること等、国際的に卓越した研究成果を挙げ、発信していることを要件とする。なお、分野の特性によっては、「国際的に卓越した研究成果」として以下の点などを示すことでも構わない。

- ・ 大型国際共同研究プロジェクトの代表者（活動全体に責任を持って中心的役割を果たすスポークスパーソンなど）の経験
- ・ 海外で刊行され、国際的に評価されている優れた学術書（2011年以降に発表されたものに限り）の著者

◎ポイント

- ・ 「高い研究実績と国際ネットワークを有する日本側研究者」であることは、応募書類の中でエビデンスとともに記載を求め、審査において適否を判断する予定

1. 国際先導研究の概要

- ② 複数名の研究者（研究代表者、研究分担者）及び、当該研究者数の3倍程度のポストドクター、大学院生（博士課程）が研究協力者として参画する研究グループにより実施される研究計画

※ 本研究種目においては、より質の高い研究成果の創出や、将来、我が国を担い国際的な研究コミュニティの中核を担える研究者の養成にも資する観点から、研究計画の中に以下の取組を必ず盛り込むことを求める。

- ・ ポストドクター、大学院生（博士課程）の海外の共同研究者のグループへの派遣・交流（2年～3年を中心とする）に係る計画
- ・ ポストドクター、大学院生（博士課程）の自立に資する取組（例：ポストドクター、大学院生（博士課程）が独立した研究者からの助言を受けつつも一定の裁量と責任の下で行う研究に必要な経費）

◎ポイント

- ・ 研究代表者1名と複数の研究協力者のみで構成する研究グループによる応募は不可（研究組織には必ず研究分担者を含めること、規模は研究協力者を含めて20～40名程度を想定しているが、分野の特性に応じて増減することも可能）

1. 国際先導研究の概要

応募総額：

5 億円以下

研究期間：

7 年（中間評価結果を踏まえ、最長 10 年まで延長が可能）

採択予定件数：

おおむね 15 件程度（極めて厳選されたもの）

重複制限：

- ・ 研究代表者、研究分担者を通じ、本研究種目に応募できるのは 1 研究課題
- ・ 特別推進研究を含め、他の研究種目との間では重複制限は課さない。

中間・事後評価：

採択された研究課題について、研究期間中に中間評価を行うとともに、研究終了翌年度に事後評価を行う。中間評価の結果に基づき、必要に応じて研究期間の延長や中止等を行う。

1. 国際先導研究の概要

留意事項：

- 研究成果について、積極的に国際共著による学術論文や国際会議での発表等により国際発信を行うことを求める。
- 採択研究課題の応募額を最大限尊重した配分を行う。
- 優れた研究チームによる国際共同研究への支援を通じ、優秀な若手研究者の育成を目指すため、研究費とは別に、以下の経費を措置する。
 - ・本研究種目で支援する研究者グループに対し、若手研究者が国際共同研究に参加しやすい研究環境を確保するための環境整備に係る経費
 - ・本研究種目の研究期間内にテニユア職の研究者（テニユアトラックを含む）として研究機関に採用されたポストドクターに対するスタートアップ経費
- 研究活動を通じて得た国際活動に関する知見を研究機関に還元する。

2. 審査の進め方等のイメージ

審査スケジュール：

令和4年内の交付内定を目指して公募審査を実施

3月中旬～5月中旬	公募期間
5月下旬～6月中旬	事前選考（応募件数が多数の場合）
6月下旬～8月下旬	国内審査意見書&海外レビュー
9月上旬～9月下旬	書面審査
10月上旬	合議審査〔1回目〕（ヒアリング対象課題の選定）
12月上旬	合議審査〔2回目〕（ヒアリングの実施）
12月下旬	交付内定

※現時点での見込み

審査体制：

- 審査会：科学研究費委員会 国際科学研究費第二部会（新設予定）
- 国際科学研究費第二部会の構成
 - ・運営小委員会（部会長、副部会長、各系委員会幹事、副幹事）
 - ・各系委員会（人文・社会系、理工系、生物系）

※上記の内容は、今後JSPS科研費委員会において審議、決定

2. 審査の進め方等のイメージ

評定要素：

下記 A～D の評定要素を総合的に判断して採択課題を決定

- A. 国際共同研究の意義・必要性（種目の趣旨・対象と応募内容との合致性）
- B. 研究計画の内容に関する評定要素
- C. 人材育成の適切性
- D. 研究機関の支援及び研究機関への還元方策の有効性

※上記の内容は、今後 J S P S 科研費委員会において審議、決定

研究計画調書の構成イメージ：

研究計画調書概要版（日本語）、
研究計画調書全体版（項目により日本語又は英語）

- (1) 国際共同研究の枠組み〔英語〕
- (2) 研究計画の内容〔英語〕
- (3) 人材育成計画の内容〔英語〕
- (4) 研究遂行能力 (CV)〔英語〕
- (5) 機関支援の内容〔日本語〕
- (6) 研究経費等〔日本語〕※Web入力項目
- (7) Letter of Intent〔英語〕

※概要版は、上記の項目を抜粋して作成